

## 今年度より始まる学童クラブの第三者評価事業

### 学童クラブとは？

学童クラブは、子どもの下校時に保護者が就労等で留守になる家庭を対象に、小学校に通学している子どもを安全に預かる放課後児童健全育成事業として行われています。そのニーズは年々高まっており、こども家庭庁の令和5年5月1日現在の調査では放課後児童クラブの利用を希望する児童の数は150万人に迫る勢いで、前の年よりも6万人以上増加しています。利用できない待機児童の数は、16,000人以上にのぼります。「学童クラブ」は、公設公営、公設民営、民立民営等運営形態は様々で、社会福祉法人、NPO法人、運営委員会・保護者会等が運営しています。児童集団の支援単位はおおむね40人以下で、放課後児童支援員の数は支援単位ごとに2人以上を置くこととし、子ども一人ひとりの健全な育成を図る事業として行われています。学童クラブでの過ごし方は基本的に子どもの自主性が大切にされ、室内には本や玩具等があり、子ども同士で遊んだり、自分の宿題をしたりと職員の見守りのもと閉所時間まで自由に過ごしていることが多いようです。

### 「学童クラブ」が第三者評価の対象となりました

東京都福祉サービス評価推進機構は2024（令和6）年より、第三者評価対象事業に「学童クラブ」を加えました。スタートにあたりひと・まち社では、機構で開催したフォローアップ研修「福祉サービスの現状を学ぶ～児童分野（学童クラブ）」を、9名の評価者が受講しました。さらに理解を深めていくために現場見学を進めています。

見学先は、運営主体が異なる私設、公設の事業所等、運営方法の異なる事業所を予定にしています。実際に現場がご苦労していることや、子どもや保護者の姿等を知ること、現実的な評価につなげていきたいと考えています。

まず第1弾として川崎市宮崎台にある「学童クラブどれみキッズ」を7月17日に見学し、今後は、運営形態の違う事業所も見学し、学童保育クラブの実態を知り、さらに理解を深めていきたいと思えます。

### 学童クラブ「どれみキッズ」を見学して

「どれみキッズ」は、「NPO法人ワーカーズ・コレクティブキャンディ」が運営しています。ワーカーズ・コレクティブは働く人が出資、経営、労働を担う働く人の協同組合です。2002年に「保育室すきっぷ」を立ち上げ、2010年に特定非営利活動法人となり、現在は5園の保育園を運営しています。「さあ今日は何をしよう！」から始まる遊びの時間、子どもたちが自分たちで考えて実行する「やりたい！」という意欲を育てることを大切にしています。

2015年に保育園を卒園後の小学生の子どもたちの居場所として学童クラブ「どれみキッズ」を開設し、さらに2017年に子ども食堂を開始、2020年にはまちづくり事業として「ワクワクこどもカレッジみやぎさきだ」を開始するなど、子育て世帯の願いに沿った事業を次々と立ち上げてきました。

学童クラブどれみキッズは、「学校からお家に帰る前に少し立ち寄って、おばあちゃんちのお家のように親子にとってほっとする居場所を作りたい」との思いで立ち上げた学童施設です。学習タイム、おやつ作り、毛筆硬筆指導、夏休みにはプール遊びなど、日々、子どもたちと向き合いながらその日のプログラムを工夫しています。

制度に縛られず、子どもや保護者にニーズに応じて柔軟な運営をするために、助成金をもらわずに保護者が支払う利用料によって独自に運営しており、公営の学童保育の後17時からの利用を受け付けたり、遠方の小学校から学童までの送迎、近隣のスイミングスクールへのお迎えを行ったり、夏休みには昼食も提供して、保護者のニーズにも応えています。



#### メールアドレス登録のお願い

ひと・まち社ではSDGsの取り組みとしてペーパーレスをすすめています。今後の機関紙「ひと・まち」の電子データでの発信をすすめています。通信購読をご希望の皆様にはメールアドレスのご登録へのご協力をお願い致します。np0@hitomachi.org

ひと・まち社へのご寄付をお願いいたします

振込先口座

特定非営利活動法人市民シンクタンクひとまち社

三菱UFJ銀行 新宿中央支店 普通 5298170

編集後記：昔、長い夏休みは近所の子どもたちと一緒に真っ黒になるまで遊んだものだった。ところが最近では共働き家庭が主流となり、年長の孫はいつもと変わらず朝7時から保育園に、2年生の孫はお弁当を持って学童に出かける。6年生の孫はお誕生プレゼントにももらった柴犬と一緒にお留守番。年長の孫が「私の夏休みは?」と不思議そうに言う。猛暑に加えて地震に台風、感染症、大変な夏だったが、夏休みももうすぐ終わる。(M)